

鳴き砂ビーチうしろはま ～五右衛門物語～

潜在能力開発研究所 重見幸俊

鳴き砂とは、砂表面をこする様にすり足で歩くとキュッキュッと、とてもヒーリング効果の高い素敵な音を出す不思議な砂です。→[うしろはまの鳴き砂の音](#) [鳴き砂ビーチうしろはまの「鳴き砂」](#)
昔は白砂青松と呼ばれ、各地に存在していた日本の鳴き砂の海岸も、今では非常に数少なくなって来ました。ゴミや油で汚染されると砂は鳴かなくなってしまうからです。
現在では全国でも30ヶ所程度しか知られていない、そんな珍しい特別な砂浜の一つが下関豊浦の鳴き砂ビーチうしろはまです。

鳴き砂の特長である浜の白さはクォーツ、つまり水晶の元である石英が主成分で構成されているからです。うしろはまの鳴き砂は、辺り一帯の地質が花崗岩(御影石)であり、それが長い年月によって風化して赤っぽい黄土色の岩と成り、更にそれが風化して真砂土となり、地表に露出した部分から粘土成分が洗い流されて石英成分が高濃度に残って形成されています。
そんなガラスの主原料でもある石英がこすり合わさって独特な音色を出すのです。
しかし風で飛んでしまう様な、砂粒が小さすぎても砂は鳴きません。
砂が鳴くには砂粒のサイズにも条件が有るのです。

この辺りの砂浜は昔は何処も鳴き砂だったと言われていましたが、高度経済成長期にガラスの材料として大量に採取され、辺り一帯の砂浜は大変に縮小してしまいました。・・・古老からの聞いた話。
一旦失われた砂浜がまた元に戻るには数百年も数千年もかかる事でしょう。
うしろはまもかつては建築資材用として砂が採取されていましたが、条例によって砂の採取が禁止されました。しかし、うしろはまは地形的に砂が寄って来るようです。(お陰でゴミもより多く漂着しますケド。)
採取禁止から30年以上経って、鳴き砂が復活して来たのです。

合同会社なんでんかんでん村による、小串後浜海水浴場の取得。

将来的に若者育成の場として活用しようと会社を設立し、このビーチ周囲の土地を我々が手に入れたのは2011年でした。

夏は海水浴客を迎える為に、施設や環境の修復・整備に着手し始めました。

自然の波で破壊されていた護岸の修復や漂着ゴミの掃除です。

敷地と砂浜を併せて7000坪に及ぶビーチの管理は大変です。徒歩で一周するだけで20分かかります。敷地整備の草刈りだけでも大変なのに、昔には無かった様な種類のゴミが年間、トン単位でうしろはまに押し寄せて来るのです。

ゴミのトップは漁網やロープ・発泡スチロールやポリ缶等の漁具、次が建築廃材、それに海藻やペットボトル等のプラスチックごみが続きます。ざっと見た処、人工ゴミの90%以上は外国からです。

漁具と思われる発泡スチロールは、大きいモノだと一つで体積250ℓとかですからね。

第三国では、そう言った類の大量のゴミを自国で処理せず、海洋投棄をしているものと思われます。

そして強風の後には、ビーチ周囲の敷地にまでそんなゴミが吹き飛ばされて来ます。

取得から8年経つ現在でも、先日もボランティアの手を借りて、分別収集したゴミはボランティア袋で100袋以上。業者はトラック2台で回収に来ていました。1台ではとても積み切れない程の量だからです。
ゴミに荒らされるままになっていたうしろはまは、そこがかつては鳴き砂だったという事はもう誰の記憶にも残っていませんでした。

鳴き砂の復活・再発見。

日当5000円として、人件費だけでも年間40万円以上は掛かる程のゴミ掃除を、少人数のスタッフが無報酬で掃除し続ける事数年目、ある時スタッフの一人が、うんざりする様なゴミ掃除でくたびれ始めた体のまま、足を引きずる様に乾いた砂の上を歩いていると、キュッキュッと砂が鳴いたのです。

「な・なんだこれは!？」

鳴き砂という言葉は知っていました。昔何かの本で読んだ事が有ったからです。

でも実際には誰も見た事もなければ体験も有りません。ここが鳴き砂だったと言う伝承も有りません。

しかし確信しました。「これが鳴き砂だ!」と。

来られる方々の憩いの場、癒しの場にしたいと考え、ボランティアでビーチの清掃を続けて来たスタッフにとって、これは自然からの驚きのプレゼントでした。くたびれて、足を引き摺ったのが幸いしたとは(笑)

砂は鳴かせ方にコツが有ります。

今までの作業でくたびれていた事もすっかり忘れ、皆で砂をキュッキュッと泣かせて、誰もかれもがまるで無邪気な子供の様にはしゃぎまわってしまいました。

鳴き砂に付いての勉強が始まりました。

同じ砂浴でも[鳴き砂での砂浴](#)は、より[デトックス効果も高い](#)様です。

ゴミ処理について。

土地を取得した当初、ゴミは軽トラに積んで、10キロ以上も離れたゴミ処理場まで何度も往復し、お金を数万円も払って捨てて行っていました。

2年後にボランティア袋というモノの存在を知って、それがもらえる様行政に申請し続けても全く相手にされない状態が3年続きました。「産業廃棄物として出せ」と完全な上から目線です。

当社が出した廃棄物では有りません。
なのに会社代表のスタッフが「産業廃棄物として出さないとこれからは受け付けない」と言われたというのです。しかもその量に対してはこれからは6万円払えと言うというのです。

違反覚悟の奥の手 (笑い話)。

最近のはき火が禁止だそうです。私たちが子供の頃は、田舎では何処でも焚火をしたりごみ焼きをしていたモノです。しかし今はそれが出来なくなっています。

私は集めたゴミを一角を設けて、経営を任せている周囲若い衆の反対を押し切って焼却し始めました。すると近所の誰かが立ち上る黒い煙を見て通報したのでしょう。

3日目には行政の役人の方がすっ飛んで来られました。

「違反ですよ。」

「知ってますよ。しかしこうでもしなきゃどうにもならない。このゴミの量を見て下さい。」

「それでも違反は違反です。ゴミの焼却(野焼き)は犯罪です。」

それから売り言葉に買い言葉の押し問答が1分くらい続いて、お役人の方も頭に来て

「警察に行きましょう」と言い始めました。

私もそこまで言われるとちょっと言葉がひるみました。そこで

「私がしている事は以前なら褒められこそする環境の掃除だが、それを犯罪と言うのならその前に、ゴミを捨てるのは犯罪ではないのですか？そういう犯罪を取り締まるのが先では有りませんか？

何故そう言う犯罪を放っておくのですか？そういう犯罪はおとがめなしですか？

そういう犯罪を見るに見かねて、良心的に処理する事は本当の犯罪なのですか？」

続いて、

「内の若いもんがおたくの方にもう3年もボランティア袋を申請し続けていると聞いているが、無視されたままで、内のゴミでも無い物を全くのボランティア、しかも善意で処理しているのに、浜を管轄する行政はほったらかしたままで、いきなり人を犯罪者扱いですか？ボランティア袋くらい下さいよ。」

そうしましたらお役人の方が即座に

「分りました、何枚いりますか？」と尋ねてくれたので「500袋」と即答しました。

そうすると親切な事に、2時間後にお役人の方がわざわざ200枚も届けて下さったのです。

「まずは200袋、足らなくなったらその時次を出します。」

と言ってくれ、場内に集積して置けば業者が引き取りに来てくれるという事にもなったのです。

喧嘩も時には建設的に売って見るモノです。停滞していた問題がこれで一步前進しました。

一輪車で一々運んでいたゴミも、袋詰めにする事で作業の効率が上がり、軽トラを借りてゴミ処理場まで往復していた作業とゴミ捨ての支払い費用からも解放され、スタッフ一同、大感謝です。

ボランティア袋とボランティアと鳴き砂。

ボランティア袋を使用するには団体名が要ります。

そこで、全国的にも珍しい鳴き砂ですから「鳴き砂ビーチを守る会」という名称を使う事にしました。

今までやり続けていた事の延長ですけどね。

しかし、ボランティア袋が頂ける様に成った事の効果は大です。

Facebook等のSNSを通じて、ボランティアの方々への応援が頂ける様になったという事です。

浜そのものは県の管轄だそうですから誰のモノでも有りません。

しかも鳴き砂です。砂は綺麗でないと鳴きません。逆に砂が鳴くと言う事は、綺麗である証拠でも有ります。

人工的な汚染を免れているという事です。そこには本当の自然が残っているという事です。

美しさ・・・そんな本当の自然は人間の本能に訴える力が有り、人間の良心を呼び覚まし、感性を育てます。

最近世間では、人間として大切な何かを忘れてたり失ってしまっている人達が増えていると思いませんか？

子供達に本物の自然を感じてもらい、そんな中で自然に人間としての豊かな感性を育む・・・そんな事の出来る環境の一つであるこの鳴き砂を残し、そしてそれを引き継いで行って欲しい・・・。

ですから、汚染の一番の原因である、人工的なゴミは絶対に除去しなければなりません。

そんなメッセージがSNSを通して伝わり、自然を愛する多くの方々から鳴き砂を守る為に色々と応援をして

くれるようになって来ました。感謝です。

また我が町の観光スポットの一つとして、地元の観光組合や行政も注目してくれ始めたようです。

次のアイデア。

ゴミを行政の係が引き取ってくれたとは言っても、私には真の解決とは思えませんでした。

何故なら、ゴミ処理にも税金が使われます。

発泡スチロールやプラスチックゴミは黒い煤煙や毒気が出るので専門施設に任せた方がいいでしょう。

しかし木材や乾燥した海藻は自然の産物であり、燃やしても白い煙です。

漂着木材だけでも大量です。これらがここでお湯になるなら、行政側の税金の節約にもなる筈です。

海水浴施設としてのうしろはまの水道は約17℃の地下水、井戸水です。

夏の暑い日中には気持ちいいかも知れませんが、夕方やシーズン前後にはちょっと冷た過ぎます。

砂浴をなさった人が砂を落とす為に冷水で体を冷やす事も出来ません。

お湯が有ればという念願も、施設修復に資金が優先され、まだまだボイラー設備等の設置には資金が回りません。

アルミのタライを手に入れ、ブロックを並べてその下で火を燃やし、お湯を作ったりしました。

私が子供の頃は、[五右衛門風呂](#)といえばそれは何処にでもある普通の風呂でした。

五右衛門風呂を造れば、漂着木材ゴミで湯が沸かせる。

ゴミ焼却ではなく、お湯を沸かす為の燃料になる。

ポンプを回す為の電気代は掛かっているが、水はただ、燃料もタダ。だったら後は大きな鍋さえ有れば・・・と言う訳でネットで五右衛門風呂の釜を検索し、下関から長崎は佐世保まで車を飛ばして購入しに行ったのです。

2018年のお盆の頃、約1カ月かけて五右衛門風呂の完成。

アニメ、ルパン三世でおなじみのキャラの一人が石川五右衛門。

その名に由来するのが五右衛門風呂です。

購入したのは280ℓの少し大きめの釜です。重さは60 kg。体重50キロ台の人なら2人は入れます。

でっかい人なら一人で独り占めですが、親子ならお父さんと子供2人、トン汁なら600人分が一気に作れるかもと言うサイズです(笑)

私の体が一人すっぽり入れる程、竈(カマド)を大きく作ったので、大量の燃料が燃やせます。

2018年夏の後半は、大量のお湯が提供出来、多くの方に喜んで頂きました。

遠赤効果の高い五右衛門風呂の快感は、ちょっと普通のお風呂と違います。

下で焚かれる木材はやがて熾火(オキビ)と成ります。丁度炭焼きで焙煎している様な状態ですね。

そんな遠赤効果をご存知だと思いますが、それが鉄を通して五右衛門釜全体から身体に入ってくる訳です。普通のお風呂とどう違うかは、これ以上の説明は出来ません。体験して頂くしかない世界です。

沖縄にも負けず劣らずのクリーンなビーチと、昼はグリーンエメラルドに輝く海を前にサンセットを眺めるか、夜は夜で遠くにイカ釣りの漁火(イカルビ)を眺め、満天の星を抱きながら遠赤の湯に浸かるのはそれはもう、至高の体験の一つと言っていいでしょう。

そんな環境の中で、初めて五右衛門風呂に浸かった人達の第一声は、間違いなく「気持ちいいっ！」です。全員がそう言います。「生きててよかったっ」と絶叫してくれた方もいるくらいです。

遠赤効果絶大の五右衛門風呂は、普通のお風呂と確かに何かが違うのです。それって何でしょう？

ほんのりと自然に香る煙にも、アロマ的な、とてもリラックス出来る癒し成分が有るのかもしれませんが。

五右衛門をかけ流し的に使う場合は、下でどんどん火を焚くので湯は直ぐに熱くなりますから温度が自分好みに丁度良くなるまで、汲み上げたばかりの綺麗な地下水でどンドンうめて行きます。

そして溢れる程の湯に浸かる瞬間、釜から数十リットルの湯がザワッと溢れ出して行く快感は贅沢そのものですね。

後は冷えていた体が芯から温まるまで至福の時間と言う訳です。

新鮮な水を補給する延長ホースは、直流やシャワー、ジェット、霧雨など、自由に切り替えられるのも面白いですよ。大の大人が水鉄砲代わりに仲間内で掛け合って夜中まではしゃいでいたりします。

そうしている内に喉が渇いて来た方に朗報・・・この地下水は味もとてもよく、そのまま飲む事も出来ます。

また竈(カマド)で火を焚く楽しみも格別です。

火を燃やす事には何か特別な魅力が有ります。ご存知でしょうか？

何万年もの昔、人間は火を操れる様になって、単なる動物と決別しました。だからでしょうか？

薪と成る木材や竹類が燃えて行く姿をじっと観る事で、人間の本能に根付く何かが活性化される様です。

人間の奥に潜む、何かの感性が研ぎ澄まされるのです。ヨガと言うチャクラでしょうか？

燃えゆく火を見詰める事に没頭するだけで、それは自然に瞑想状態に誘(イザナ)われるのです。

ですから、子供にも竈の中だけでは火遊びが出来ない事を教えましょう。

何故なら、火遊びって、とても楽しいモノです。

火遊びを知る子は、物事の原理原則を実体験で知るからです。現代教育は子供に火を教えません。

人間としての感性を呼び覚ます秘密は、この様な誰もが見過ごしている、実に簡単な処に在るのです。

鳴き砂ビーチうしろはまは、現代に於いて、そんな失われつつある人間性の回復を目的として運営されています。

更なるアイデア。

漂着ゴミの木材が燃やしきれません。それほど漂着ゴミは大量なのです。

この漂着木材をどう処理するか？

釜でお湯の沸くスピードを考えると、気温が28℃を超える様な暑い日には、6時間も焚き続ければ4tのお湯が出来ると思いました。サイズにして約4畳半程度の浴槽。

鳴き砂ビーチうしろはまの周囲には、自然石がゴロゴロしています。

この石を使って浴槽を創ろうと発案しました。

そこで2018年夏のシーズンが終わった頃、その石を若いスタッフの人達に3~4t集めて置いてもらいました。

私のイメージ。

鳴き砂ビーチうしろはまでは、厚島(コルトー)から右に島が2つ並び、更にその右にクジラ島が有り、夏の時期はその右手に太陽が水平線に沈むという、絶景の景観が有ります。

バーベキューや海水浴の後、その沈みゆく太陽の夕日を浴び、その眺めを楽しみながらビールを片手に、夜は満天の星空を仰いで、人生を語り合う様な露天風呂が有ったら、何処にもないヒーリングスポットになるという連想の展開でした。

それを夢見て素人の作業ですが、セメントと砂を混ぜてモルタルを作り、皆に拾って来てもらった石を一つ一つ積み重ねて行きました。

五右衛門風呂はどんどんお湯が作れるのでかけ流し的に使用します。

気温を問わず、年中いつでも使用出来ます。しかし大きな浴槽ではそうはいきません。

浄化装置を設置し殺菌処理と、釜で沸かした湯を循環型で温度をキープする方式を考えました。

気温が28度を超える時は6時間で立派な露天風呂になりますが、6月等、気温がそれ以下では小さな温水プールですね。

しかし凄い事に気がきました。

ぬるい湯に中サイズの浮き輪を首と腰に当たる様に仕掛けて浮かべば、ほぼ無重力状態、幽体離脱(アストラトリップ)の疑似体験が出来ます。これは凄い発見！

この方式で頭と心を空にして、20分間も浮かんでいればとても癒されますよ(笑)

鳴き砂ビーチを守る会「鳴き砂の湯」の完成。

この露天風呂は、主宰が「鳴き砂ビーチを守る会」ですから、この露天風呂を使用するには、普通の海水浴のお客様にもご協力頂いています。

それは誰でも一掴み、ゴミを拾って来て頂いた方は無料で入れるというモノです。

海藻でもプラスチックゴミでも木材でも何でも構いません。

たった一掴みで良いのです。

これからも鳴き砂を守って行きたいと思って下さる方、また少しでも多くの方にそう思って頂ける様にと啓蒙の一手段になればと考えています。

環境の浄化に協力頂いた方に、他では絶対に味わえないモノを、そして不快でしかなかったゴミの一部が捉え方次第でこんな素敵に快感に変わるという事を体験して頂きたいのです。

苦の連続・・・それが人生ですが、でもそれってこれと似ていると思いませんか？

苦と捉えればそれまでですが、捉え方次第で人生には輝く様な活路が拓くのです。

今までは鬱陶しくて仕方なかった単なるゴミですが、今では私達にとって竹や木の漂着物は宝に見え始めましたよ。

何故ならそれは、鳴き砂ビーチうしろはまを訪ねて下さる方々の、歓喜溢れる笑顔や表情の原因(五右衛門風呂)のそのまた大元と成る材料だ、と言う認識に私達は到達する事が出来たからです。

ちょっとここだけの裏話

五右衛門風呂及び露天風呂製作編

護岸修復編

無料休憩所編

ジェットスキー用のスロープ作成編

密猟を取り締まるという海上保安庁の矛盾編

鳶が食べ物を狙って来る編

砂浴編

NHK 浜昼顔編

どうにもならない大きな漂着発泡スチロールで、いかだを作りましょうか(笑)

漂着ゴミモニュメントと言う訳です。

海上保安庁が本気で原因を追究しようともせず、無視し続けている汚染の原因を、結果こう成っているとアピールするのです。

魚釣りをする筏(イカダ)、或いは「ゴミに乗って漂流するのは違反ですか？」と言う訳です。